



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 地球 1925, 4(1)

ISSUE DATE:

1925-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182975>

RIGHT:

地球

大正十四年
七月
第四卷

地球 第四卷 總目錄 大正十四年七月—十二月

圖版及寫真版

第一版	日本海等深圖	(第一號)
第二版	但北地震湊村砂丘の沈海と田結の斷層	(第一號)
第三版	但北地震々害分布圖	(第一號)
第四版	但北地震——圓山川河口と田結の震害	(第二號)
第五版	スビツベルゲンの海岸	(第二號)
第六版	櫻島火山	(第四號)
第七版	咸鏡北道吉州蠶頭山	(第四號)
第八版	小坂鑛山鑛床の母岩	(第六號)
卷頭辭		(第一號)

但北地震踏査記

阿波の隆起海岸

エミル・アルガン氏亞細亞構造論

日本近海の深さ(一一)

世界に於ける魔術の分布

上本横石
間山川
河不次成
雄男郎章

小牧實繁

小川琢治

夏見寛治

夏見寛治

立
山
……
愛
山
生
……
五

(十二) 留ケ 嶽 附 近
(十三) 十 和 田
(十四) 加 古 川 附 近
(十五) 寒 古 川 附 近
(十六) 阿 蘇 の 五 峯
(十七) 三 津 瀬 戸 の 例

四	三	三	二	一
七	八	一	二	五
一	六	二	九	三
				四

東亞地質構造論から觀た地震現象の説明(下)……………小川琢治……………
五〇三

日本白堊紀三角介砂岩中の化石帶……………矢部長克……………二三

極地の群島スピツベルゲン……………井上禧之助……………二六

伯林だより（ペンク教授の近況）……………寺田貞治……………一〇九

但北地震の震源の深さと震源の性質に就て……………熊谷直一……………一八二

古代四國の聚落に就て……………小牧實繁……………二〇八

關東大震災と神戸港……………西 龜 正 夫……………二七

千島及地形測量餘談……………陸地測量部地形科班員……………一三三

火山現象に就て……………小川琢治……………二六二

硫黃島地質見聞記……………本間不二男……………二九〇

空山雜觀……………小牧實繁……………三〇九

ベスピオ登臨記……………松山基範……………三五

濟州火山島雜記……………中村新太郎……………三五

南滿洲の花崗岩……………
吉田 弟彦……………三七

和泉砂岩層に就て……………江原眞伍……………三五

雜 報

地球 第四卷 總目次

萬國地理學會議	八
加奈陀に於ける水河の研究	九二
西班牙諸港の變遷	九二
百合球根の輸出	九四
米國北西部森林資源	九五
パンシヤ事情	九五
第四十二回文檢地理科豫備試驗問題	九七
世界の石炭産額	一二
第四卷第一號の正誤	一五二
佐々連の石灰洞	一五七
ラトヴィア國との修交	一六一
混鐵隕石大富號	一七一
莫斯科經由倫敦行旅程	一七一
人造絹糸	一七二
暹羅產木材	一七三
雲南のハム	一七三
龍海線徐州海州間開通	一七三
上海罷市と船會社の損害	一七四
礦物科豫備試驗問題	一七五
礦物科本試驗問題	一七五
第四十二回地理科本試驗問題	一八〇
大きな月の圖	一八二
第三卷第五號のアンケライトの產地訂正	一八三
秋田縣に新溫泉を發見す	一八二
丹後但馬震災地方海面調査の結果	一八九

岡山支部近況	一五〇
笠置山近傍の地形	一五〇
市俄古大西洋連絡新航路	一五一
一八七一年以降世界生絲總産額	一五一
伊太利の水力電氣	一五二
新金鐵トモット事情	一五二
ロスアンゼルス的發展	一五二
シリヤ近狀	一五三
イラツク近況	一五三
西比利亞の毛皮	一五三
太平洋の資源	一五四
濟州島を外國でケルパート島と呼ぶことに就て	一五五
文檢地理科豫備試驗問題(第四十三回)	一五五
地球學團岡山支部近況	一五五
廣島縣沼隈郡浦崎村に隕石隕つ	一五五
島根縣安渡郡西村海岸の砒化木	一五五
最上地方蕨根の利用	一五五
新高山の高さの測量	一五五
朝鮮江原道平康郡福辰山のナルコン	一五五
奉天省の水田	一五五
世界に於ける既成水力電氣	一五五
希臘に於ける養蠶業の發達	一五五
墨西哥に於ける産業投資	一五五
陸山葵の林間栽培	一五五
菩提の瀧の臨穴	一五五
淡路洲本附近の段丘	一五五

新刊紹介

安行地方の苗木	四八八
北海道西岸の堆	四八九
航洋船宜昌直通成功	四八九
西比利亞地方組織	四八九
匈牙利に於ける聚落の形式	四九〇
パレスティナの近況	四九一
海南小記	四九七
生物地學講話	四九八
日本陶瓷史	四九八
地理教材研究第六輯	四九九
英領阿弗利加事情	一五八
溫泉の研究	一五八
河の自然現象	一五八
大日本國勢地理	一五八
外國地理掛圖第一輯	一五九
岩石地質學	一五九
改訂増補地文學講義	一五九
世界産業地理要論	一五九
耐震耐火的建築土木原料土石と其利用	一六〇
富士山の自然界	一六二
丹那盆地附近地質調查報告	一六二
臺灣實地地質學	一六二
大日本帝國郡市別人口密度圖	一六二
朝鮮の人口研究	一六四

質疑應答

太平洋民族誌	四九四
アルプス山系の構造(文檢問題)	九九
汴洛鐵道(文檢問題)	一〇〇
截頭河	一〇〇
氣候の寒暖と陰、陽曆との關係	一〇一
ラプラス星雲説の弱點と微遊星説の要點	一七七
淺間山の所屬火山帶と火山帶の意義	一七七
萬國緯度變化觀測所について	一七七
耐火粘土の成因と主成分	一七八
田園都市	一七八
北アメリカの氷河(文檢問題)	一五八
萬縣(文檢問題)	一六〇
ノーム(文檢)	一六〇
タンピコ(文檢)	一六〇
スコットランドの自然地理(文檢)	四二二
江蘇省の人文地理(文檢)	四二三
アーランド島の歸屬	四二五
寺洞	四九五
レッドリヴァー	四九五
サンヘッド口港	四九六
陣風線	四九六
斷層窪地	四九七
石油成因説	四九七
編輯便り	三二四

但北地震踏査號

地球

第四卷第一號

大正十四年七月一日發行

主要目次

圖版

- 第一版 日本海等深圖
第二版 但北地震溪村砂丘の沈海と田結の斷層
第三版 但北地震々書分布圖

但北地震踏査記

理學士 石川成章
理學士 榎山次郎
理學士 本間不二男
理學士 上河善雄

一、踏査日程

二、地震現象

三、海水面の異常

四、地下水の異常

五、崩壊

七、石燈籠の傾倒及廻轉

八、家屋の被害

九、被害の程度

阿波の隆起海岸

文學士 小牧實繁
文學博士 小川琢治

エミルアルガン氏亞細亞構造論

理學博士 小川琢治

日本近海の深さ

夏見寛治
愛山生

世界に於ける魔術の分布

夏見寛治
愛山生

立山としての地形圖（十）槍ヶ岳附近

愛山生

紀伊水道津浪の古記録

如舟老人

朝鮮地名の考説

理學士 中村新太郎

雜誌介紹

理學士 中村新太郎

質疑應答

理學士 中村新太郎

第三卷 總目錄

京都帝國大學理學部

地質學教室內

地球學園

第四卷第二號(八月號)豫告

圖版 第四版 但北地震圖山川河口と田結の震害
第五版 スビツベルゲンの海岸

構造地震の意義..... 理學博士 小川 琢 治

但北地震の破壊力に就て..... 理學士 熊 谷 直 一

スビツベルゲンの海岸..... 理學博士 井上禧之助

日本白堊紀三角介砂岩中の化石帶..... 理學博士 矢 部 長 克

支那沿岸航路の發達..... 文學士 藤 田 元 春

古代四國の聚落到就いて..... 文學士 小 牧 實 繁

世界に於ける魔術の分布(二)..... 夏 見 寛 治

地理教材としての地形圖(十三) 十和田湖.....

談 叢..... 如 舟 老 人

泰山の爬山虎.....

講 話..... 理學士 中村新太郎

朝鮮地名の考説(二).....

雜 報.....

新刊紹介.....

質疑應答.....

卷頭の辭

『地球』第三卷を終結して第四卷に入るに臨み、半年間の過程を回顧すれば、一月に海岸號を出版し、四月に地方誌を主題として第二回講習會を開いた。時期の第一回と接近し且つ教務に鞅掌される團員には多少不便なりしに關らず、七十餘名來集されて、前回と講師の顔觸を異にし聽講者もまた新顔を加へ清新の氣分横溢し、時恰も陽春に際し洛東洛西諸山の遠足會も頗る愉快であつた。五月初旬には岡山市團員の熱心な努力により支部の創設を見たのは各地方の團員間に興りつゝある氣運の朕兆として最も顯著で、此の烽火に呼應する地方の續出を疑はぬ。

此の後半年には突發した但北地震に就いて團員の踏査研究に従事しつゝある結果を發表する外に、かねてから計畫した火山現象に關する特別號を十月に發刊し、第三回講習會は地理研究の基礎觀念として重要な地質學を主題とし歲末に開催し、以て團員集合の機會を作る豫定である。新釘の表紙圖案に希臘の『火山神』ヘファイストス即ち羅馬のブルカンを描いたのはこの秋の火山號に因んだものである。

大正十四年七月

地 球 學 團

地球

第四卷 第一號

地球

第四卷 第一號 目次

卷頭の辭

圖版

第一版 日本海等深圖
第三版 但北地震々害分布圖

第二版 但北地震湊村砂丘の沈海と田結の斷層

但北地震踏査記

一、踏査日程

四、地下水の異常

七、石燈籠の顛倒及廻轉

二、地震現象
五、崩壊
八、家屋の被害

三、海面の異常
六、道路及田圃の龜裂
九、被害の程度

阿波の隆起海岸

エミル・アルガン氏亞細亞構造論

日本近海の深さ

世界に於ける魔術の分布

立山

地理教材としての地形圖

理學士 石川 成章
理學士 榎山 次郎
理學士 本間 不二男
理學士 上河 善雄

文學士 小牧 實繁 (四)

理學博士 小川 琢治 (四)

夏見 寛治 (五)

愛山 生 (五)

愛山 生 (五)

愛山 生 (五)

談 叢

紀伊水道津浪の古記録

如舟老人（支）

講 話

朝鮮地名の考説（一）

理學士 中村新太郎（八二）

雜 報

○加奈陀に於ける水河の研究

○西班牙諸港の變遷

○百合球根の輸出

○米國北西部森林資源

○バンジャブ事情

○第四十二回文檢地理科豫備試驗問題

○萬國地理學會議

○火山號の發行

○京都帝國大學夏期講演會

新刊紹介

○海南小記

○生物地學講話

○日本陶瓷史

○地理教材研究第六輯

質疑應答

○地理科文檢豫備試驗問題

アルプス山系の構造。汴洛鐵道。截頭河。

○太陽曆と太陰曆

地球 第三卷 總目錄

前號要目

圖版第十一……遠江掛川附近地質圖……………	理學士 槇山次郎
遠江掛川附近第三紀層の層序……………	理學士 石川成章
山陰道特に鳥取縣の溫泉に就て……………	理學士 小川琢治
中國地方の鍛刀工業……………	理學博士 小川琢治
(刀劍の地理的研究第三稿)……………	
阿波國勝浦郡羽ノ浦町附近のオルビドリナ石灰……………	理學士 江原眞伍
岩とイノセラムス層……………	
日本近海の深さ(一)……………	玉貫光一
北樺太採集記(上)……………	
地理教材としての地形圖(松本附近)……………	
談叢……………	
朴刀(水滸傳の地理四)……………	如舟老人
講話……………	
地球を構成する物質と其の分布(五)……………	理學博士 松原厚
雜誌……………	
新刊紹介……………	
質疑應答……………	

前々號要目

圖版第十版……ドーヴァーとナイアガラ瀑布……………	理學博士 松山基範
第二回萬國測地學及地球物理學協會總會に現はれた重な問題……………	理學博士 小川琢治
日本紅簾片岩の成因……………	理學博士 小川琢治
荒川鑛山産アンケライト(菱鐵灰鐵)について……………	川井景吉
近畿地方の鍛刀工業……………	理學博士 小川琢治
(刀劍の地理的研究第二稿)……………	
小佛古生層の時代如何……………	理學士 江原眞伍
中世回教徒の地理學(カールショイ)……………	
ビスケーを通じて(渡歐日記第九信)文學士寺田貞次……………	
地理教材としての地形圖(甲山長津高原の南縁)……………	
談叢……………	
一輪車(水滸傳の地理三)……………	
講話……………	
地球を構成する物質と其の分布(四)……………	理學博士 松原厚
雜誌……………	
新刊紹介……………	
質疑應答……………	

地球學團規約

- 第一條 本學團を地球學團といふ。
- 第二條 本學團は地球に關する學術的研究を進め兼て同好の士の親睦をはかるを目的とする。
- 第三條 事務所を京都市白川追分町京都帝國大學地質學教室内に置く。又會員が多い地方には支部を置く事がある。
- 第四條 本學團の事業は次の如くである。
 雜誌並に圖書の刊行
 實地見學の指導
 講演並に講習會の開催
- 第五條 本學團員は地球學讀費として一年分六圓又は半年分三圓を發行所へ前納すること。
- 第六條 本學團員になりた人は、住所職業氏名を申込み、同時に地球學讀費半年分以上を、發行所へ送金する事。同時學團を脱退しやうとする者は、其の旨を學團に通知すること。
- 第七條

注文規定

- ① 購讀者の御注文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候。
- ② 本誌の御注文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候。
- ③ 振替貯金にて御送金は(振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番)内外出版株式會社宛に願上候。
- ④ 前金切の場合に帶封に前金切の印章捺捺致すべくに付直に御拂込下され度候。
- ⑤ 特に請求書及領收書等を要する場合に郵差參錢御送付下され度候。

價定

一冊	定價金五十錢	郵税金貳錢
六冊(前金)	定價金參圓	郵税不申受
十二冊(前金)	定價金六圓	郵税不申受

廣告料 一頁 金五拾圓 半頁は取扱不申

大正十四年六月廿五日印刷納本
大正十四年七月一日發行

第三卷
第六號

京都帝國大學理學部
地質學教室內

編輯者 地球學團

右代表者 藤田元春

發行者 大谷仁兵衛

印刷者 田中和一郎

印刷所 内外出版株式會社印刷部

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版株式會社

振替口座 大阪三二九五番三九三一番
東京三九三一番

本所 京都市下京區西洞院通七條南
出張所 京都市京橋區加賀町十番地
販賣所 京都市神田區錦町一ノ十九

内外出版株式會社

東京堂 東海堂 北隆館

所捌賣

(東京) 東京堂
(大阪) 上田屋
(神戶) 盛文館
(京都) 寶文館
(名古屋) 共盛社
(名古屋) マガジン
川瀨盛堂
川瀨進堂
大瀨盛堂
川瀨盛堂

CHIKYŪ-THE GLOBE

Vol. IV. No. 1.

July, 1925

- Pl. I. Bathymetrical Chart of Japan Sea.
 Pl. II. The Northern Tajima Earthquake.
 a. Drowned Coast at Minatomura, Takeno-gōri, Tango.
 b. Fault produced on the Hill at Tai, Kinosaki-gōri, Tajima.
 Pl. III. Map showing Distribution of the destroyed Towns and Villages in the Northern Tajima Earthquake.

Reports on the Northern Tajima Earthquake, May 23rd, 1925.

By S. Ishikawa, J. Makiyama, F. Homma, Y. Kamikawa etc..... 1

Raised Strand of Aawa, Shikoku 43

By S. Komaki, *B. S.* 43

Emile Argand: Tectonic of Asia Reviewed 47

By T. Ogawa, *R. H.* 47

Depth of the Surrounding Seas of Japan (2) 50

Distribution of Magic in the World 60

By K. Natsumi..... 60

Hints to Travellers to Tateyama 65

By an Alpinist. 65

Topographical Maps recommended for Schools (12)..... 74

An Old Record of Tsunami, in Kii Channel.....By T. O... 78

Place Names of Korea 82

By S. Nakamura, *R. S.*..... 82

Geographical Notes—New Books—Inquiries

Chikyū Gakudan
 Kyōtō.

(大正十三年三月十八日)
 第三種郵便物認可
 (大正十四年七月一日發行)
 (每月一回印刷)
 (納本發行)

地球第四卷第一號

定價金五拾錢

(郵稅壹錢)